

05 DEC 2005
- 6
2008

10/559652

PCT/JP2004/007710

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

04.06.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

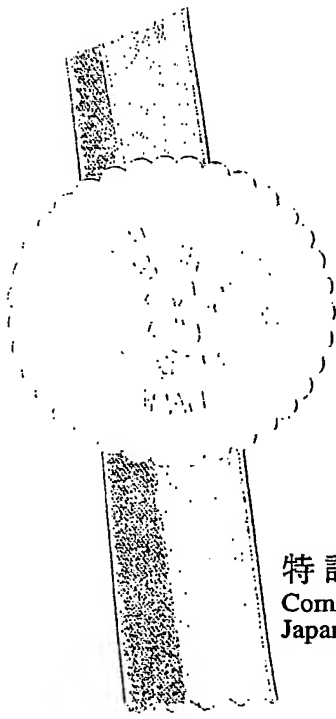
出願年月日
Date of Application: 2003年 6月 6日

出願番号
Application Number: 特願2003-162550
[ST. 10/C]: [JP2003-162550]

出願人
Applicant(s): 株式会社ブリヂストン

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

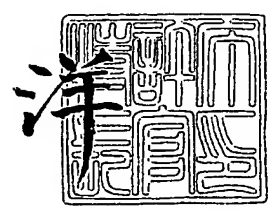
REC'D 29 JUL 2004
WIPO PCT



特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

2004年 7月14日

小川



出証番号 出証特2004-3060976

【書類名】 特許願

【整理番号】 P238007

【提出日】 平成15年 6月 6日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 B60C 17/11

【発明の名称】 安全タイヤ用空気のうち

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 東京都小平市小川東町 3 - 1 - 1 株式会社 ブリヂス
トン 技術センター内

【氏名】 田中 善隆

【特許出願人】

【識別番号】 000005278

【氏名又は名称】 株式会社 ブリヂストーン

【代理人】

【識別番号】 100072051

【弁理士】

【氏名又は名称】 杉村 興作

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 074997

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9712186

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 安全タイヤ用空気のう

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 タイヤに収納されて内圧を充填され、タイヤ内圧の低下に基づいて拡張変形して荷重の支持をタイヤから肩代わりする、全体として中空円環状をなす空気のうであって、

空気のうの拡張変形部分は、タイヤのトレッド部の内面に対向するクラウン域と、少なくともタイヤのサイドウォール部の内面に対向する側部域とよりなり、50%伸長率に至るまでの周方向伸長率に対する引張力曲線は、拡張変形部分のクラウン域では、伸長率が5%の近傍で急峻な直線状から概ね平坦なカーブに変化する鉤状をなし、側部域では、伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状をなす安全タイヤ用空気のう。

【請求項 2】 拡張変形部分は補強層を具えてなり、補強層は、一枚以上のポリマーシート、または、ポリマーシートもしくは繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなる請求項 1 に記載の安全タイヤ用空気のう。

【請求項 3】 クラウン域の前記補強層は、繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなり、繊維部材を、アラミド繊維を多方向に向けて配置した不織布としてなる請求項 1～2 のいずれかに記載の安全タイヤ用空気のう。

【請求項 4】 側部域の前記補強層は、繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなり、繊維部材を、ナイロン繊維もしくはポリエステル繊維を多方向に向けて配置した不織布としてなる請求項 1～3 のいずれかに記載の安全タイヤ用空気のう。

【請求項 5】 前記補強層は、中空円環状のゴムチューブ体の外側に貼り付けられてなる請求項 1～4 のいずれかに記載の安全タイヤ用空気のう。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、タイヤのパンク等によってタイヤ内圧が低下もしくは消失しても、所定の距離にわたって安全な走行を継続できる安全タイヤに用いられ、タイヤ内

圧の低下に基づいて拡張変形して荷重の支持をタイヤから肩代わりする安全タイヤ用の空気のものに関する。

【0002】

【従来の技術】

タイヤのパンク、エアバルブの損傷等が生じて、タイヤ内圧が減少もしくは消失しても、タイヤの交換、補修等が可能な設備を具える場所まで、タイヤをそのまま継続して安全に負荷転動させることができる安全タイヤの要請に応えるべく、従来から各種の安全タイヤが提案されている。

【0003】

その一例としては、図4に横断面図で示すように、タイヤ21の内側に中空円環状の空気22を収納するものがあり、このような安全タイヤは、タイヤ21を規格リムRにリム組みして、そのタイヤ内に、バルブを介して所定の内圧を充填するとともに、空気22内にもまたバルブを介してタイヤ内圧以上の内圧を充填することにより使用に供される（例えば、特許文献1。）。

【0004】

そして、この空気22は、その横断面において、タイヤ21のビード部の近傍に位置する点Pを境に拡張変形部分23と非変形部分24とに区画することができ、拡張変形部分23は、タイヤ21の、所定内圧の存在下での負荷転動の状態、いわゆる正常走行時には、タイヤ21の内面に接触することはないが、タイヤ内圧の減少、消失等により、空気22の内外圧力差が所定値を越えた、いわゆるランフラット走行時には、周方向および幅方向に拡張変形してタイヤ21の内面にそのほぼ全体にわたって密着する部分であり、一方、非変形部分24は、正常走行時、ランフラット走行時のいずれにおいても、タイヤ21およびリムRの内面に密着して空気22を規格リムRに確実に固定する部分である。

【0005】

そして、拡張変形部分23は、さらに、タイヤのトレッド部の内面に対向するクラウン域25と、少なくともタイヤのサイドウォール部の内面に対向する側部域26とに区画することができ、ランフラット走行時には、クラウン域25がト

レッド部の内面に、側部域 26 がサイドウォール部の内面にそれぞれ密着することにより、空気のうち 22 は従来のタイヤチューブの如く機能し、タイヤ 21 の撓み変形を小さく抑制しつつ、荷重の支持をタイヤ 21 から肩代わりするので、タイヤ 21 のパンク時等における継続した安全走行を実現することができる。

【0006】

空気のうち 22 は、中空円環状をなし軟質ゴムよりなるゴムチューブ体 27 と、ゴムチューブ体 27 の外側に貼り付けられた補強層 28 とを具え、この補強層 28 は、例えば、クラウン域 25 においては、アラミド繊維等よりなる不織布をゴムで被覆した不織布層 28a の複数層重ねて構成され、側部域 26 においては、同じ材料の不織布層 28 を一層だけ用いて構成されている。

【0007】

図 5 (a) は、このように構成された補強層 28 を有する拡張変形部分 23 の、伸長率に対する引張力曲線の形状を、横軸に伸長率、縦軸に単位断面積当たりの引張力をとって示す模式図であり、この引張力曲線は、50%伸長率に至るまでの伸長範囲内で、ほぼ鉤状に変化する形状をなしている。より具体的には、空気のうち 22 の拡張変形部分 23 が、空気のうち 22 への内圧の供給に基づいて膨張する、0~5%の間のその伸長率に対する引張力の平均勾配を、その拡張変形部分 23 が、タイヤの内圧低下に伴って拡張変形する、5~50%の範囲のその伸長率に対する引張力の平均勾配より大きくして構成されている。

【0008】

この構成によれば、タイヤ 21 の正常走行時には、空気のうち 22 の拡張変形部分 23 の、伸長率に対する引張力の増加割合が大きいことにより、その拡張変形部分に、遠心力等に対抗する大きな力を付与することができ、空気のうち 22 がタイヤ 21 の内面に接触することを防止して、正常走行時の耐久性を確保する一方、拡張変形部分が 5%を越えて伸長する、タイヤのパンク時等の拡張変形に当たっては、空気のうち 22 の拡張変形部分 23 を、伸長率に対する、引張力の小さな増加割合の下で、滑らかにかつ緩やかに変形させることで、その拡張変形部分 23、ひいては、空気のうち 22 を、タイヤ内面の全体にわたって十分均等に接触させることができる。

【0009】

これに対し、タイヤのパンク等の際し、空気のうち22の拡張変形部分23を急速に変形させた場合には、空気のうち22の拡張変形部分23に、タイヤ内面に局部的に早期に当接する部分が生じて、空気のうち22の、タイヤ内面への偏心接触、空気のうち22の一部の折れ曲がり等が生じ易く、これらのことが一旦発生すると、空気のうち22とタイヤ21との摩擦力、空気のうち22の曲がりぐせ等によって、適正な接触状態をもたらす得なくなる。

【0010】

空気のうち22を形成するには、ゴムチューブ体27となる未加硫もしくは加硫済のゴムチューブ成型体に未加硫の補強層を貼り付けたあとこれらを加硫するが、図6は、未加硫補強層となる補強層成型体33の具体的成型例を、一部を破断除去して示す斜視図である。ここでは、所要の横断面外輪郭形状を有する、全体としてほぼ円環状の硬質支持部材31の外周面上に、不織布層28aとなる未加硫の狭幅ストリップ、好ましくは10～70mmの範囲の一定幅のストリップ34を、支持体31のほぼ円周方向に延在させるとともに、その支持体31の幅方向に、螺旋状に隙間なく巻回して、支持体31の幅方向の所要領域の全体にわたって貼付けることによって、支持体31の周りにエンドレスに延びて、円周上でシームレスの構造になる補強層成型体33を成型する。この例の場合、このあと、補強層成型体33を、支持体31から取り外し、ゴムチューブ成型体の外側に貼り付け、その後これを加硫して空気のうち22を形成する。

【0011】

ここで、ストリップ34を支持体31の周りに巻回して補強層成型体33を成型したあとこれをゴムチューブ成型体上に移載して貼り付ける代りに、ストリップ34を直接未加硫のゴムチューブ成型体上に巻回して直接この上に補強層成型体を形成することもできる。

【0012】

【特許文献1】

国際公開第02/43975号パンフレット

【0013】

【発明が解決しようとする課題】

上述のように構成された空気のうち 22 は、その本来の機能とは別に、その形成する過程における生産効率上の問題があった。すなわち、ストリップ 34 を支持体 31 もしくはゴムチューブ成型体に巻回して、拡張変形部分 23 の側部域 26 に対応する補強層成型体 33 の部分を形成するとき、ストリップ 34 の幅方向は、支持体 31 もしくはゴムチューブ成型体の半径方向内外に向くため、ストリップ 34 の幅方向左右で巻付け径が異なり、その結果、支持体 31 もしくはゴムチューブ成型体の半径方向外側に位置する幅方向側部を伸ばしながら巻回する必要がある、一方、製品となった空気のうち 22 においては、その拡張変形部分 23 は、図 5 (a) の引張力曲線に示すように、伸長率が 5 % において大きな引張力となることが製品性能上必要であり、したがって、図 5 (b) に示すように、補強材成型体 34 の引張力曲線もこれと同様の形状を担持しなければならず、その結果、ストリップ 34 の幅方向一方の側を大きく伸ばすためには非常に大きなテンションを必要とし、このため巻回に要する時間が多大なものとなって生産性を大きく低下させてしまうという問題があった。これを防止するため、ストリップ 34 の幅を狭くすれば、巻き付け回数を増加せざるをえず、これもまた生産性を低下させるものに帰してしまう。

【0014】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたものであり、高い生産性を維持して製造することができ、しかも、拡張変形部分は、タイヤの正常走行時にはタイヤ内面に接触することなく、また、ラインフラット走行時には均等にタイヤ内面に密着させることのできる安全タイヤ用空気のうちを提供することを目的とする。

【0015】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するため、本発明はなされたものであり、その要旨構成ならびに作用を以下に示す。

【0016】

請求項 1 に記載の安全タイヤ用空気のうちは、タイヤに収納されて内圧を充填さ

れ、タイヤ内圧の低下に基づいて拡張変形して荷重の支持をタイヤから肩代わりする、全体として中空円環状をなす空気のうちであって、

空気のうちの拡張変形部分は、タイヤのトレッド部の内面に対向するクラウン域と、少なくともタイヤのサイドウォール部の内面に対向する側部域とよりなり、50%伸長率に至るまでの周方向伸長率に対する引張力曲線は、拡張変形部分のクラウン域では、伸長率が5%の近傍で急峻な直線状から概ね平坦なカーブに変化する鉤状をなし、側部域では、伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状をなすものである。

【0017】

従来技術について前述したとおり、ストリップを周方向に巻回してストリップの幅方向両側で巻き付け径の異なる側部域の補強層を形成するに際し、支持体もしくはゴムチューブ成型体の半径方向外側に位置する幅方向端部を伸ばしながら巻回しなければならないが、この安全タイヤ用空気のうちによれば、拡張変形部分の側部域における引張力曲線を伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状のものとしたので、この幅方向側部を伸ばすのに大きなテンションを必要とせず、その結果、ストリップの巻回に要する時間を短縮して生産性を向上させることができる。

【0018】

しかも、拡張変形部分の側部域における引張力曲線を伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状のものとしても、側部域の張力負担はクラウン域に比べ小さいため、正常走行時の拡張変形部分のタイヤ内面との接触を防止し、なおかつ、ランフラット走行時にはこの部分のタイヤ内面との密着を均一にすることができる。

【0019】

請求項2に記載の安全タイヤ用空気のうちは、請求項1に記載するところにおいて、拡張変形部分は補強層を具えてなり、補強層は、一枚以上のポリマーシート、または、ポリマーシートもしくは繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなるものである。

【0020】

この安全タイヤ用空気のように、補強層を、一枚以上のポリマーシート、または、ポリマーシートもしくは繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなるものとしたので、補強層を張力支持部材として機能させることができ、タイヤの正常走行時には、トレッド接地域内で、その空気の中の拡張変形部分が、遠心力その他の作用によってトレッド部の内周面等に擦れるのを有効に防止することができ、一方、タイヤ内圧の減少、消失等によって空気の中の内外圧力差が所定値を越えた場合には、ポリマーシートまたは複合体の伸長変形下で空気の中の拡張変形部分が拡張変形を行って、タイヤの内面にその全体にわたってほぼ均等に密着し、内圧を保持してタイヤの撓み変形の増大を抑制しつつ、空気の中をもって荷重の支持をタイヤから肩代わりするので、タイヤのパンク時等においても継続的な安全走行を実現することができる。

【0021】

請求項3に記載の安全タイヤ用空気のは、請求項1～2のいずれかに記載するところにおいて、クラウン域の前記補強層は、繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなり、繊維部材を、アラミド繊維を多方向に向けて配置した不織布としてなるものである。

【0022】

この安全タイヤ用空気のように、クラウン域における繊維部材として、アラミド繊維を多方向に向けて配置した不織布を用いたので、拡張変形部分のクラウン域における引張力曲線を、所定の伸長率の近傍で急峻な直線状から概ね平坦なカーブに変化する鉤状をなすものとすることができる。

【0023】

請求項4に記載の安全タイヤ用空気のは、請求項1～3のいずれかに記載するところにおいて、側部域の前記補強層は、繊維部材とゴムとの複合体の一層以上よりなり、繊維部材を、ナイロン繊維もしくはポリエステル繊維を多方向に向けて配置した不織布としてなるものである。

【0024】

この安全タイヤ用空気のように、側部域における繊維部材として、ナイロン繊維もしくはポリエステル繊維を多方向に向けて配置した不織布を用いたので

、拡張変形部分の側部域における引張力曲線を伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状のものとすることができる。

【0025】

請求項5に記載の安全タイヤ用空気のは、請求項1～4のいずれかに記載するところにおいて、前記補強層は、中空円環状のゴムチューブ体の外側に貼り付けられてなるものである。

【0026】

この安全タイヤ用空気のはによれば、中空円環状のゴムチューブ体の外側に補強層貼り付けるので、この空気のはを簡易に製造することができる。

【0027】

【発明の実施の形態】

以下にこの発明の実施の形態を図面に示すところに基づいて説明する。図1はこの発明の実施の形態を、安全タイヤのリム組立体の状態を示す横断面図であり、図中10は安全タイヤの全体を示す。この安全タイヤ10は、タイヤ1とそこに収納した空気のは2との組合わせになる。タイヤ1は、一般的な空気入りタイヤと同様のものであり、トレッド部14と、その両側に連なる一対のサイドウォール部15と、サイドウォール部15の内周側に設けたビード部16とを具える。

【0028】

この安全タイヤ10は、タイヤ1を規格リムRにリム組みして、タイヤ1内に、バルブを介して所定の内圧を充填するとともに、空気のは2内にもまたバルブを介してタイヤ1の内圧以上の内圧を充填することにより使用に供される。

【0029】

そして、この空気のは2は、その横断面において、タイヤ1のビード部16の近傍に位置する点Pを境に拡張変形部分3と非変形部分4とに区画することができる。拡張変形部分3は、タイヤ1の、所定内圧の存在下での負荷転動の状態、いわゆる正常走行時には、タイヤ1の内面に接触することはないが、タイヤ内圧の減少、消失等により、空気のは2の内外圧力差が所定値を越えた、いわゆるランフラット走行時には、周方向および幅方向に拡張変形してタイヤ1の内面にそれ

のほぼ全体にわたって密着する部分であり、一方、非変形部分 4 は、正常走行時、ランフラット走行時のいずれにおいても、タイヤ 1 およびリム R の内面に密着して空気 2 を規格リム R に確実に固定する部分である。

【0030】

そして、拡張変形部分 3 は、さらに、タイヤのトレッド部 14 の内面に対向するクラウン域 5 と、少なくともタイヤのサイドウォール部の内面に対向する側部域 6 とに区画することができ、ランフラット走行時には、クラウン域 5 がトレッド部 14 の内面に、側部域 6 がサイドウォール部 15 の内面にそれぞれ密着することにより、空気 2 は従来のタイヤチューブの如く機能し、タイヤ 1 の撓み変形を小さく抑制しつつ、荷重の支持をタイヤ 1 から肩代わりするので、タイヤ 1 のパンク時等における継続した安全走行を実現することができる。

【0031】

空気 2 は、中空円環状をなし軟質ゴムよりなるゴムチューブ体 7 と、ゴムチューブ体 7 の外側に貼り付けられた補強層 8 とを具え、クラウン域 5 に位置する補強層 8 C は、例えば、アラミド繊維等よりなる不織布をゴムで被覆した不織布層 8 a を複数層重ねて構成され、側部域 6 に位置する補強層 8 S は、クラウン域 5 で用いられるものとは異なる材料の不織布、例えば、ナイロン繊維やポリエステル繊維よりなる不織布をゴムで被覆した不織布層 8 a の一層だけで構成されている。

【0032】

図 2 は、このように構成された補強層 8 を有する拡張変形部分 3 の、伸長率に対する引張力曲線の形状を、横軸に伸長率、縦軸に単位断面積当たりの引張力をもって示す模式図であり、うち、引張力曲線 A は、拡張変形部分 3 のクラウン域 5 に対するものであり、引張力曲線 B は、拡張変形部分 3 の側部域 6 に対するものである。引張力曲線 A は、50%伸長率に至るまでの伸長範囲内で、ほぼ鉤状に変化する形状をなしている。より具体的には、空気 2 の拡張変形部分 3 が、空気 2 への内圧の供給に基づいて膨張する、0～5%の間のその伸長率に対する引張力の平均勾配を、その拡張変形部分 23 が、タイヤの内圧低下に伴って拡張変形する、5～50%の範囲のその伸長率に対する引張力の平均勾

配より大きくして構成されている。

【0033】

一方、引張り曲線Bは、50%伸長率に至るまでの伸長範囲内で、伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する形状を有し、伸長率が0~5%の引張力曲線の平均勾配の、伸長率が5~50%の引張力曲線の平均勾配に対する割合は、引張り曲線Aに対比すると、引張り曲線Bの方が小さい。

【0034】

この構成によれば、クラウン域においては、タイヤ1の正常走行時には、空気のうち2の拡張変形部分23の、伸長率に対する引張力の増加割合が大きいことにより、その拡張変形部分に、遠心力等に対抗する大きな力を付与することができ、空気のうち2がトレッド部14の内面に接触することを防止して、正常走行時の耐久性を確保する一方、拡張変形部分が5%を越えて伸長する、タイヤのパンク時等の拡張変形に当っては、空気のうち2の拡張変形部分3を、伸長率に対する、引張力の小さな増加割合の下で、滑らかにかつ緩やかに変形させることで、その拡張変形部分3、ひいては、空気のうち2を、タイヤ内面の全体にわたって十分均等に接触させることができる。

【0035】

これに対して、側部域においては、正常走行時の、空気のうち2のタイヤ内面への接触防止機能、ランフラット走行時のタイヤとの密着機能は、それぞれ、クラウン域と同様に必要ではあるものの、クラウン域に対比するとこれらに対する要求度が低く、むしろ、従来技術において問題となる、前述の、ストリップを巻回して未加硫の不織布層8aを形成する際の生産性を改善することが重要である。

【0036】

図3は、未加硫のゴムチューブ体7に貼り付ける未加硫の不織布層8aの引張力曲線を示す模式図であり、図中、引張力曲線Aはクラウン域5の補強層8Cを構成する不織布層8aに対応するもの、引張力曲線Bは側部域6の補強層8Sを構成する不織布層8aに対応するものである。未加硫状態においても、引張力曲線Bは、なだらかな右肩上がりの形状をなし、よって、ストリップを周方向に巻回して未加硫の補強層8Sを形成するに際して、ストリップを巻回する際の、ス

トリップ幅方向の伸長率の差に起因して要求される、ストリップへのテンションを大幅に低減して、ストリップの巻回に要する時間を短縮して生産性を改良することができる。

【0037】

なお、上述の説明において、規格リムとは、JATMA YEAR BOOK、ETRTO STANDARD MANUAL、TRA (THE TIRE and RIM ASSOCIATION INC.) YEAR BOOK等で規格が定められたリムをいい、JATMA YEAR BOOKで代表すれば、規格リムは、一般情報に記載された適用リムに相当する。また、タイヤ1内、空気のう2内に充填する気体は、空気以外の不活性ガスその他のガスとすることもできる。

【0038】

ここで、不織布層8aに用いられる繊維素材としては、ポリエステル、ポリアミド、ポリビニルアルコールに代表される合成素材や、レーヨン、セルロース等の天然繊維の単独又は二種類以上混合したものを挙げることができるが、前記以外の繊維素材であっても良い。また、繊維自身は、内層、外層を異なる素材とする二層構造の繊維も不織布の材料として使用することができる。

【0039】

なお、このような不織布層8aにおけるゴムは、加硫工程での熱および圧力によって繊維間に浸透又は進入するため、一般的には、不織布への特別な接着剤の塗布等の処理は必要ないが、より一層の接着力が必要な場合には、接着剤の塗布等の処理を施すこともできる。そして、これらのいずれにあっても、ゴムは、25℃での50%モジュラスが2~9MPa、100%モジュラスが40~150MPaであることが、空気のう3の形状維持および、その円滑なる拡張変形を実現する上で好ましい。

【0040】

【実施例】

図1に示す構造の空気のう2は、クラウン域5の補強層8Cは4層の不織布層よりなり、側部域6の補強層8Cは1層の不織布層8aよりなっている。これら

各不織布層 8 a を構成する不織布の繊維素材をかえた、従来例および実施例 1、2 の 3 種の空気のを作成し、それぞれの空気について、成型時の生産性、空気のを原材料費、製品性能としての、クリープ性能および均一拡張性を評価し、その結果を表 1 にまとめた。また、それぞれの空気のをクラウン域および側部域から切り取ってできる短冊片と同等の構造・材料よりなるサンプルを製作し、それらの周方向伸長率に対する引張力を測定した。図 7 は、それぞれのサンプルについて測定した引張力曲線を示し、縦軸は、サンプルの単位幅あたりの引張力を示す。

【0041】

ここで、実施例 1、実施例 2 および従来例の空気のをとも、クラウン域 5 の不織布層 8 a はすべてアラミド繊維よりなるものとし、側部域 6 の不織布層 8 a は、実施例 1 はポリエステル繊維、実施例 2 はナイロン繊維、そして、従来例はアラミド繊維よりなるものとした。これらのアラミド繊維、ポリエステル繊維、および、ナイロン繊維よりなる不織布層の不織布の仕様を表 2 に示す。また、いずれの例の空気のをとも、これに対応するタイヤのサイズは 495/45R22.5 である。

【0042】

【表 1】

表 1

	成型時の 生産性	直材費	クリープ 抑制性能	均一 拡張性能
従来例	100	100	100	OK
実施例 1	170	90	98	OK
実施例 2	190	85	90	OK

【0043】

【表 2】

表 2

不織布層の主材料	メーカー	メーカー型番	目付 (g/m ²)
アラミド繊維	日本バイリーン (株)	テクノーラ	50
ポリエステル繊維	日本バイリーン (株)	LMW-9004	40
ナイロン繊維	日本バイリーン (株)	CV-9865	65

【0044】

表 1 において、成型時の生産性、直材費、およびクリーブ抑制性能に関しては、従来例のものを 100 としてそれに対する指数であらわした。ここで、成型時の生産性は、空気のうち一本を成型するのに要する時間を指数で表わし、直材費は、一本の空気のうちに必要な直接材料のコストを指数で表わし、クリーブ抑制性能は、ドラム試験にて 60 km/h の速度でタイヤを走行させ、10000 km 走行後のタイヤ直径の、初期状態よりの増加率を指数で表わした。また、均一拡張性能は、それぞれの例のタイヤを装着した車両を、速度 50 km/h で半径 7.5 m の周回路を実車走行させ、その走行途中で、空気のうち内部に予めセットした爆弾により空気のを破裂させ、直後にフルにブレーキング操作を行ったとき、タイヤがリムから外れることなく停止できるか否かを観察し、停止できれば「OK」、できない場合には「NG」として評価した。

【0045】

図 7 から明らかなように、実施例 1、2 の空気の中のいずれも、クラウン域の引張り曲線は鉤状をなすとともに、側部域の引張り曲線はなだらかな右肩上がりの形状をなすものであり、本発明に該当するものである。そして、表 1 によれば、実施例 1、2 はいずれも、製品性能、特に、均一拡張性を犠牲にすることなく、成型時の生産性を大幅に改良することができ、あわせて、直材費の大幅な低減ももたらすことができることがわかる。

【0046】

【発明の効果】

以上に述べたところから明らかなように、この発明の空気のうち 2 によれば、50%伸長率に至るまでの伸長率に対する引張力曲線を、拡張変形部分 3 のクラウン域 5 では、所定の伸長率の近傍で急峻な直線状からほぼ平坦な直線状に変化する鉤状をなし、側部域 6 では、伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状をなすものとしたので、高い生産性を維持して製造することができ、しかも、拡張変形部分 3 は、タイヤの通常走行時にはタイヤ内面に接触することなく、また、ラインフラット走行時には均等にタイヤ内面に密着させて、荷重を効率よく支持することができる。ることのできる安全タイヤ用空気のうちを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の実施形態の空気のうちを安全タイヤのリム組立体の状態で示す横断面図である。

【図 2】 拡張変形部分の引張力曲線の形状を示す模式図である。

【図 3】 不織布層の未加硫素材の引張力曲線を示す模式図である。

【図 4】 従来の空気のうちを示す横断面図である。

【図 5】 従来の空気うちの拡張変形部分の引張力曲線の形状を示す模式図である。

【図 6】 従来の空気うちの補強層の具体的成型例を、一部を破断除去して示す斜視図である。

【図 7】 従来例、実施例 1～3 のそれぞれの空気のうちに関し、クラウン域および側部域の引張力曲線を示すグラフである。

【符号の説明】

- 1 タイヤ
- 2 空気のうち
- 3 拡張変形部分
- 4 非変形部分
- 5 クラウン域
- 6 側部域
- 7 ゴムチューブ体

8、8 C、8 S 補強層

8 a 不織布層

1 0 安全タイヤ

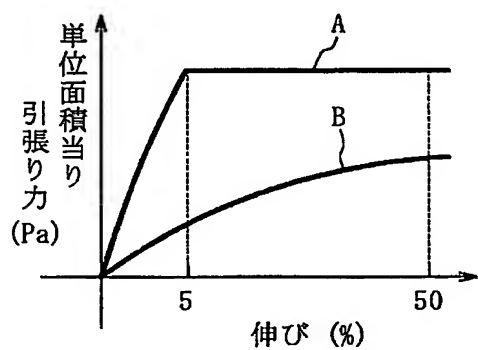
1 4 トレッド部

1 5 サイドウォール部

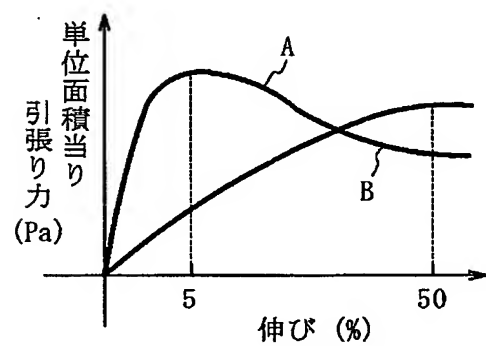
1 6 ビード部

R 規格リム

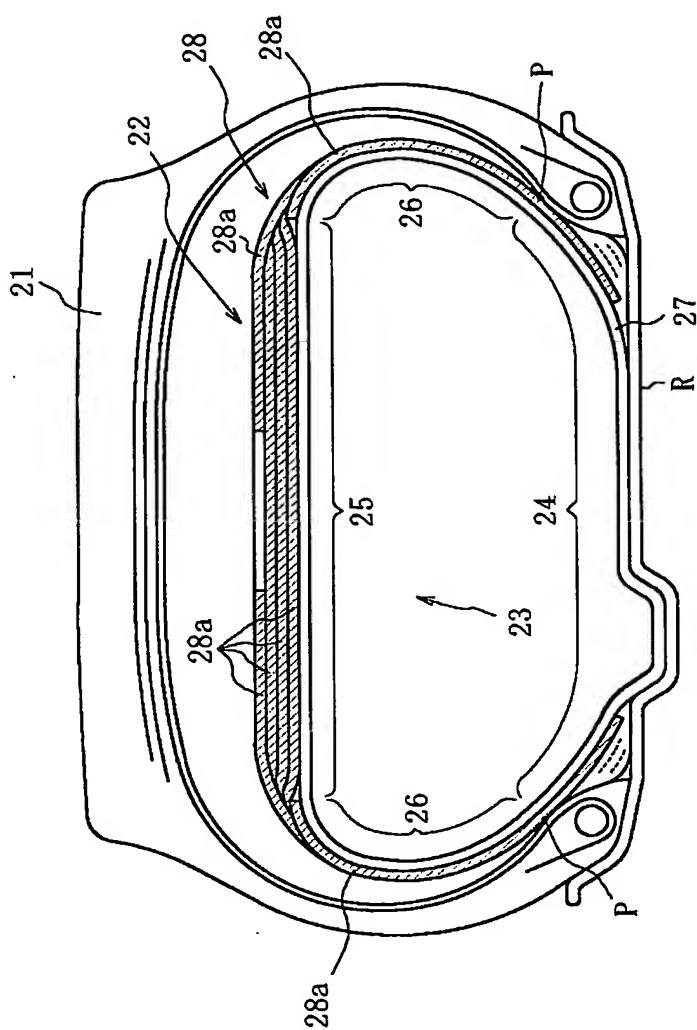
【図 2】



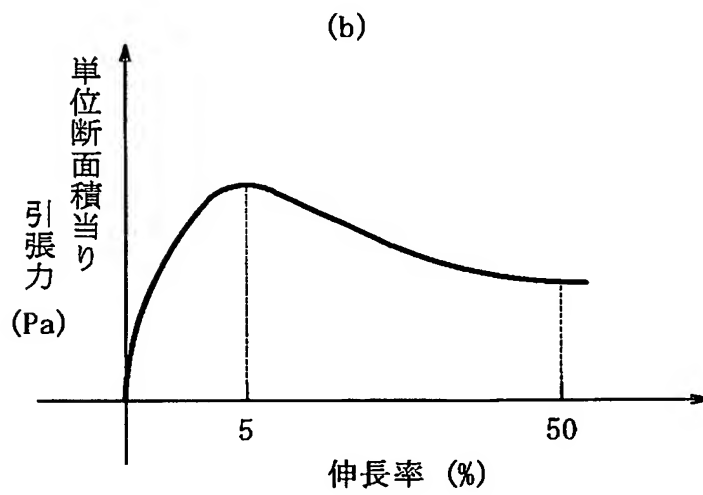
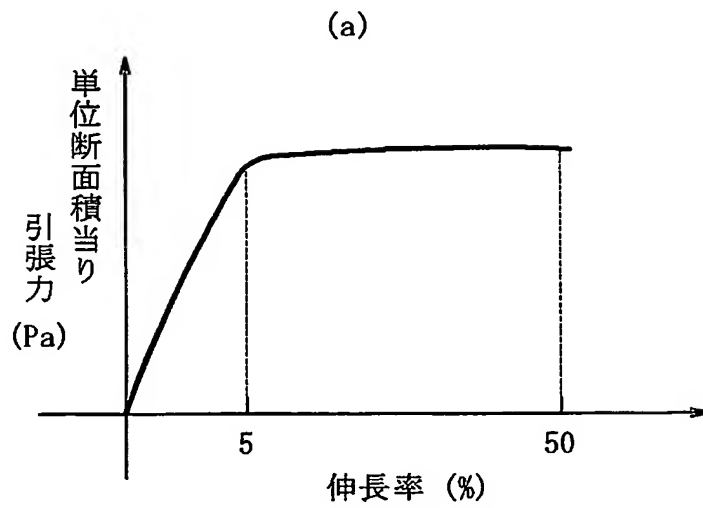
【図 3】



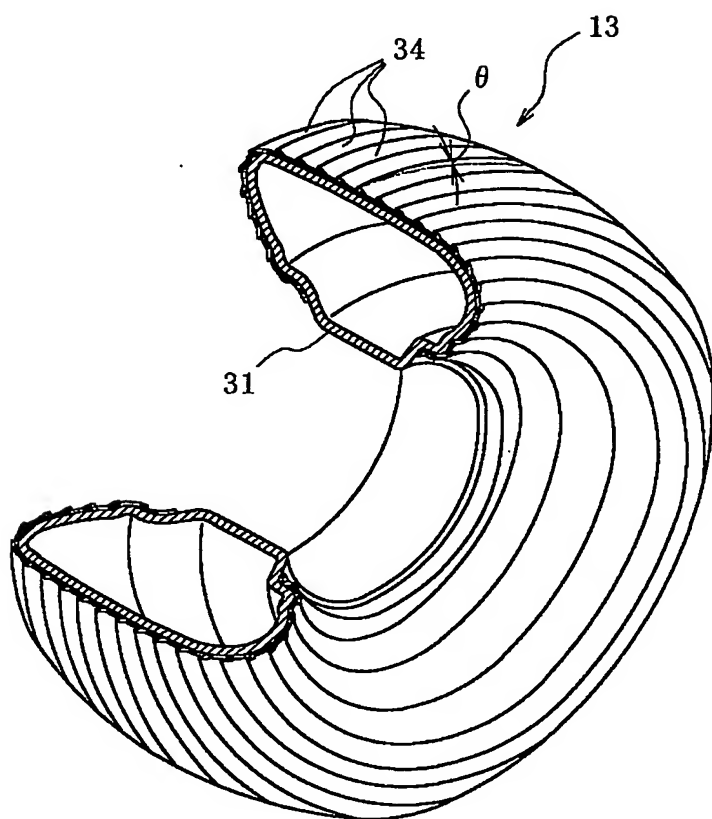
【図 4】



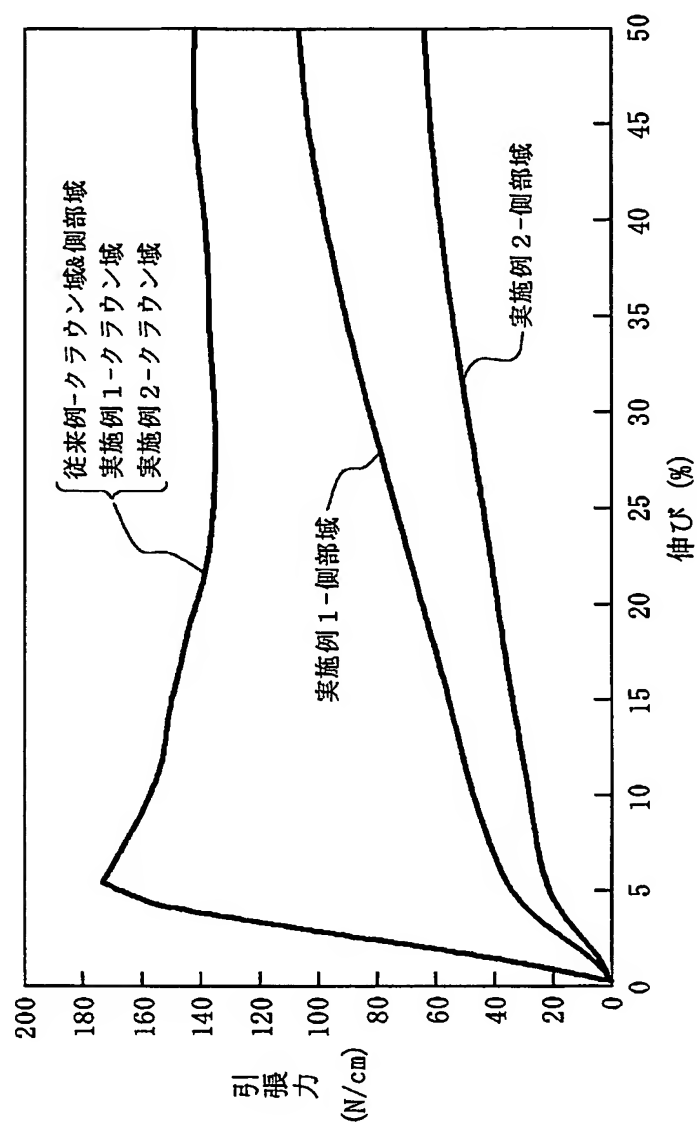
【図 5】



【図6】



【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 高い生産性を維持して製造することができ、しかも、拡張変形部分は、タイヤの通常走行時にはタイヤ内面に接触することなく、また、ラインフラット走行時には均等にタイヤ内面に密着させることのできる安全タイヤ用空気のを提供する。

【解決手段】 安全タイヤ用空気のを 2 に関し、50%伸長率に至るまでの伸長率に対する引張力曲線を、拡張変形部分 3 のクラウン域 5 では、所定の伸長率の近傍で急峻な直線状からほぼ平坦な直線状に変化する鉤状をなし、側部域 6 では、伸長率の増加に伴ってなだらかに増加する右肩上がりの形状をなすものとする。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 3 - 1 6 2 5 5 0

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 2 7 8]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 7 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都中央区京橋1丁目10番1号

氏 名

株式会社ブリヂストン